

상급 일본어 학습자의 일본어 오용례 분석

전성용*

目次

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 0. 들어가며 | 3. 표현의 오용 |
| 1. 어휘 사용의 오용 | 3.1 경어 표현에 있어서의 오용 |
| 1.1 한국어(모국어)적 표현으로 나타나는 오용 | 3.2 한국어적 표현으로 나타나는 오용 |
| 1.2 유사한 어휘로 인한 오용 | 3.3 수식표현에 있어서의 오용 |
| 1.3 청·탁음의 혼동으로 인한 오용 | 4. 마치며 |
| 2. 문법적 오용 | |
| 2.1 동사의 경우 | |
| 2.2 조사의 경우 | |
| 2.3 그 외의 경우 | |
-

0. 들어가며

상급 일본어 학습자의 일본어 오용례 분석은 제가 근무하는 청주대학교 일어일문학과 4학년 수업인 [(일본어)고급 문장 연습]을 수강한 4학년 학생들을 대상으로 그들이 일본어로 작문한 문장(테마는 학생의 자유이었음)에 근거한 것으로 이들의 작문에서 오용례를 수집·조사한 것이다.

청주대학교의 일어일문학과에 재학 중인 4학년 학생으로서 [(일본어)고급 문

* 청주대학교 부교수 일본어학

장 연습]이란 과목을 수강한 학생을 대상으로 한 결과를 통계낸 것이기에, 이것을 한국인 일본어 학습자의 일반론적인 것으로 보기에 다소 무리가 없지는 않지만, 그래도 청주대 학생에게만 국한되지 않고 어느 정도는 우리나라 일본어 학습자들의 일본어에 대한 오용의 특징을 찾을 수 있고, 또 앞으로의 지도에 참고가 될 것 같아 조사해 보았다. 그런데 여기서 [상급 일본어 학습자]라고 한 것은 이들 4학년의 대부분의 학생들이 어학연수로 1년간 일본에서 공부하며 생활한 경험이 있기에 일본어의 레벨을 상급으로 간주하였으며, 일어일문학과 4학년이라 하더라도 일본에서 1년간 어학연수를 다녀오지 않은 학생들의 예문은 여기에서 제외하였다. 또 일본에 1년간 어학연수를 다녀 온 4학년이라 할지라도 지금까지의 학습 환경과 일본에서의 학습생활 여부 등 이런 모든 것을 고려해서 분석해야 했지만, 이런 것은 거의 모두가 다르기에 이런 부분까지 모두 고려한다면 일정한 기준선을 긋기가 어려워 여기에서는 이런 것들을 무시하였음을 밝힌다

1. 어휘 사용의 오용

이것은 일본어를 사용하는데 있어 적절한 어휘를 사용하지 못하고, 어휘를 잘못 선택·사용해서 나타나는 오용으로 그 원인으로는 다음과 같이 여러 가지 경우가 생각된다. 그런데 하나의 예문에서 2개 이상의 오용예가 나타날 경우, 각 해당항목에서는 거기에 해당하는 예문만을 취급하며 그 외의 오용은 원문 그대로 남겨두었다.

1.1 한국어(모국어)적 표현으로 나타나는 오용

이것은 일본어 학습자들이 일본어를 사용하는데 있어 「일본에서 만난 조선민족의 형들 → 日本で出会った朝鮮民族の兄達」 「난치의 병 → 難治の病氣」 등과 같이 한국어적 표현인 그대로 일본어로 단어가 바뀌어서 나타나는 것이다. 이하 오용으로 쓰인 단어의 품사별로 자세히 살펴보기로 한다.

【명사의 경우】

이것은 일본어에 있어 한국어적 표현이 명사에 쓰인 오용으로 「청주대학교 → 淸州大 학교」 「부족한 점이 많은 사람 → 不足な点が多い人」 「일본에서 만난 조선민족의 형들 → 日本で出会った朝鮮民族の兄達」 「난치의 병 → 難治の病氣」 「(우리)집 아파트 뒤에 있는 산 → 家のアパートの後ろにある山」 「고객대

응 → 顧客応対」와 같은 경우이다.

例1; 私は現在、**清州大学校**の日本語日文学科4年生です。

→ 私は現在、**清州大学**の日本語日文学科4年生です。

例2; 私は不足な点が多い人だと思いましたが、～

→ 私は不足な点が多い**人間(者)**だと思いましたが、～

例3; 日本で出会った朝鮮民族の**兄達**は、物質的には僕らより豊かではないかも知れないが、

→ 日本で出会った朝鮮民族の**先輩達**は、物質的には僕らより豊かではないかも知れないが、～

例4; 実は彼女は**難治**の病気にかかって、ずっと病院に入院していました。

→ 実は彼女は**重い**病気にかかって、ずっと病院に入院していました。

例5; 電話も国際電話だから一日に2、3回ぐらいするのが**全部**です。

→ 電話も国際電話だから一日に2、3回ぐらいするのが**やっと**です。

例6; 好きなところもいやなところもあったけれども、今になって考えてみると自然にほほえめる思い出がたくさんあった。

→ 好きな**点**もいやな**点**もあったけれども、今になって考えてみると自然にほほえめる思い出がたくさんあった。

例7; いい縁になればという**願い**で私の紹介を致します。

→ いい縁になればという**思い**で私の紹介を致します。

例8; 日曜日になると、家の**アパート**の後ろにある山に、お父さんによくつれていってもらって登ったのだ。

→ 日曜日になると、家の**団地**の後ろにある山に、お父さんによくつれていってもらって登ったのだ。

例9; 1年間のデパートのアルバイトでの**顧客応対**は人の対して何を優先するか、～

→ 1年間のデパートのアルバイトでの**接客業務**は人の対して何を優先するか、～

例10; 短所は感受性が豊富なので事事にあまり冷静な**行動**ができないということです。

→ 短所は感受性が豊富なので物事にあまり冷静な**対応**ができないということです。

例11; 料理は暇な時、家でテレビを見る**場合**に私が好きな番組がなかったら料理の番組をよく見ます。

→ 料理は暇な時、家でテレビを見る**時**に私が好きな番組がなかったら料理の番組をよく見ます。

【동사의 경우】

이것은 일본어에 있어 한국어적 표현이 동사에 쓰인 오용으로 「그렇게 바라 고 있었던 유학 → あんなに願っていた留学」 「(회사) 지원하게 된 것입니다

→ 志願することにしたのです」 「귀사에 응하게 되어 → 貴社に應ずることができて」 「상대를 대하려고 노력하고 있습니다 → 相手を対しようと努力しています」 등과 같은 것인데 유난히 명사와 동사에서 오용의 예문이 많은 것이 특징적이다.

例12; あんなに願っていた留学だったので、～

→ あんなに行きたかった留学だったので、～

例13; いままで勉強して来た専門を活かした仕事をしたかったので、志願することにしたのです。

→ いままで勉強して来た専門を活かした仕事をしたかったので、応募することにしたのです。

例14; まず、貴社に**応ず**ることができて真に嬉しいです。

→まず、貴社に**応募**することができて真に嬉しいです。

例15; 私はいつも笑いながら相手を**対**しようと努力しています。

→ 私はいつも笑いながら相手を**接**しようと努力しています。

例16; 一緒に遊んでくださったことも忘れられない思い出の一つだ。今は北京に引っ越したけど、一生**納め**たいと思う。

→ 一緒に遊んでくださったことも忘れられない思い出の一つだ。今は北京に引っ越したけど、一生**覚えて**いたいと思う。

例17; まわりに友だちがたくさんいることもこのような生活信条を持っていたからと言えます。人が**生きながら**、社会の生活の中で一番大切なことはまさに暖かい微笑と明るい笑いだと思います。

→ まわりに友だちがたくさんいることもこのような生活信条を持っていたからと言えます。
人が**生きていく上で**、社会の生活の中で一番大切なことはまさに暖かい微笑と明るい笑いだと思います。

【형용(동)사의 경우】

이것은 일본어에 있어 한국어적 표현이 형용사에 쓰인 오용으로 「애처로운 그녀 → いじらしい彼女」 「가는 것이 중요하다 → 行くのが大切」 등과 같은 경우이다.

例18; 今のつまと息子。十年ぶりに会った**いじらしい**彼女。

→ 今のつまと息子。十年ぶりに会った**かわい**そうな彼女。

例19; あるいてつかれた足を休むためにも店は**必ず行くのが大切**。

→ あるいてつかれた足を休むためにも店は**必ず行くのがよい**。

【부사의 경우】

이것은 일본어에 있어 한국어적 표현이 부사에 쓰인 오용으로 「(메일) 자주 보

낼 수 있기 때문에 → たびたび送られるから」 「더 좋은 인상 → もっといい印象」
「~을 우리들은 즉각 → ~を僕らは直ちに」 등과 같은 경우이다.

例20; 電話も国際電話だから、一日に2, 3回ぐらいするのが全部です。でもメールなどは
たびたび送られるから、それが慰めになっています。

→ 電話も国際電話だから、一日に2, 3回ぐらいするのが全部です。でもメールな
どはたくさん送られるから、それが慰めになっています。

例21; その昔の音楽と暖かい柚子茶によって、もっといい印象をあたえた。

→ その昔の音楽と暖かい柚子茶によって、よりいい印象をあたえた。

例22; 中国の朝鮮民族の人達を僕らは直ちに、不法滞在者やお金を稼ぎに来た人達とし
か見てなかったことでした。

→ 中国の朝鮮民族の人達を僕らはただ、不法滞在者やお金を稼ぎに来た人達と
しか見てなかったことでした。

例23; 言葉が通じると相手をさらに分かることができるし、それはまた相手の国と文化を分か
るはじめの一步になります。

→ 言葉が通じると相手をさらに深く分かることができるし、それはまた相手の国と文
化を分かるはじめの一步になります。

【接尾辞의 경우】

이것은 한국어적 표현이 일본어의 접미사에서 나타난 오용으로, 다음 예문에서 보여지 듯, 단수명사가 쓰여야 할 곳에 복수명사로 쓰이며, 복수명사로 쓰여야 할 곳에 단수명사가 쓰인 경우이다.

例24; 横浜といえば、人たちはランドマーク、中華街、元町、山下公園などと思い浮かべる。

→ 横浜といえば、人はランドマーク、中華街、元町、山下公園などと思い浮かべる。

例25; そのためかもしれないけれど、人々に第一印象がいいとよく言われました。

→ そのためかもしれないけれど、人に第一印象がいいとよく言われました。

例26; もし私みたいに国籍が違う二人が付き合うとしたら、～

→ もし私たちみたいに国籍が違う二人が付き合うとしたら、～

【그 외의 경우】

이것은 일본어에 있어 한국어적 표현이 조사 등에 나타난 오용으로 「우리들이 예의만으로 말한 것도→ 僕らが礼儀だけで言ったことも」 「장래에 → 将来に」 「외국어 고등학교를 진학한 이후 → 外国語の高校を進学した以降」 「웃으면서 상대를 대하려고 → 笑いながら相手を対しよう」 등과 같은 경우이다.

- 例27; 時々僕らが礼儀**だけ**で言ったことも、彼らは真に受けて、～
→ 時々僕らが礼儀**で**言ったことも、彼らは真に受けて、～
- 例28; その中で料理の番組は韓国よりもたくさんあるので将来に韓国に日本料理の店をオープンしたいと思ったこともありました。
→ その中で料理の番組は韓国よりもたくさんあるので将来韓国に日本料理の店をオープンしたいと思ったこともありました。
- 例29; 日本人以外**にも**どの国の人が来ても必ず行くところ、インサドン。
→ 日本人以外**の**どの国の人が来ても必ず行くところ、インサドン。
- 例30; 外国語の高校を進学した以降、いままで勉強して来た専門を活かした仕事があったので、～
→ 外国語の高校**に**進学した以降、いままで勉強して来た専門を活かした仕事しなかったから、～
- 例31; 私はいつも笑いながら相手**を**対しようと努力しています。
→ 私はいつも笑いながら相手**に**対しようと努力しています。
- 例32; 私の母は飯を炊く**たびは**一回に五日間ぐらいの量のごはんを炊いて食べるし、～
→ 私の母は飯を炊く**たびに**一回に五日間ぐらいの量のごはんを炊いて食べるし、～
- 例33; 同じ言葉を喋る彼らは妙な感じで、ちょっと**は**親しくなれるのか不安でありました。
→ 同じ言葉を喋る彼らは妙な感じで、ちょっと親しくなれるのか不安でありました。
- 例34; それで、思いきって休学し1年間日本にいながら日本という国の言葉や文化、習慣などの**すべてを**直接的に接することにしました。
→ それで、思いきって休学し1年間日本にいながら日本という国の言葉や文化、習慣などの**すべてに**直接的に接することにしました。

그러나 다음의 두 예문의 오용은 [무슨 일이라도] 라는 한국어적 표현을 그대로 일본어로 표현한 오용이라 생각되지만, 다음에 언급할 [1.2 유사한 어휘로 인한 오용]으로도 해석이 가능한 오용이라 생각된다.

- 例35; 大変な状況の時**も**いつも頑張っていた両親を見ながら、**なんの**¹⁾ことでも最善を尽くそうと思ってました。
→ 大変な状況の時**も**いつも頑張っていた両親を見ながら、**どんな**ことでも最善を尽くそうと思ってました。
- 例36; 私は明るくて闊達な性格を持っています。それで**なんの**ことでも肯定的に考えるのでいい結果を得たことがたくさんあります。

1) なんの (何の) 에 대해 『岩波国語辞典 (第四版) · 岩波書店』에서는 「連語」라고 정의하고 있으며 『新明解国語辞典 (第五版) · 三省堂』에서는 「連体詞」라고 정의하고 있음.

→ 私は明るくて闊達な性格を持っています。それでどんなことでも肯定的に考えるのでいい結果を得たことがたくさんあります。

1.2 유사한 어휘로 인한 오용

이것은 일본어를 사용하는데 있어 한국어적 표현인 단어가 그대로 일본어로 바뀌어서 표현된다기보다, 한국어의 어휘에 해당하는 유사한 일본어가 여러 개 있는 경우(예; 「자랑 → 誇り・自慢・誉れ・うぬぼれ」 「배우다 → 習う・学ぶ」 「많다 → 多い・たくさんだ」) 적절한 단어를 선택하여 사용하는데 있어서 나타나는 오용인데, 특히 동사와 접속사에서 두드러지는 것 같다.

【명사의 경우】

例37; 自分が持っている韓国に文化を**自慢**に思っていました。

→ 自分が持っている韓国に文化を**誇り**に思っていました。

例38; 短所は感受性が豊富なので**事事**にあまり冷静な行動ができないということです。

→ 短所は感受性が豊富なので**物事**にあまり冷静な行動ができないということです。

【동사의 경우】

例39; 国が二分していて、中国、ロシア、日本などいろいろなところに僕らの民族は**生きて**います。

→ 国が二分していて、中国、ロシア、日本などいろいろなところに僕らの民族は**住**んでいます。

例40; 2年生の時は大学の寮長として人の対しての責任感を**ならい**、1年間のデパートのアルバイトでの顧客対応は人の対して何を優先するか、～

→ 2年生の時は大学の寮長として人の対しての責任感を**学び**、1年間のデパートのアルバイトでの顧客対応は人の対して何を優先するか、～

例41; 専門の日本語にとって足りない部分を**足す**ために、東京で語学の研修をして来ました。

→ 専門の日本語にとって足りない部分を**補う**ために、東京で語学の研修をして来ました。

例42; いままでの**経験**と勉強して来たことを**基づ**いて頑張れる機会が来たら、～

→ いままでの**経験**と勉強して来たことを**もと**に頑張れる機会が来たら、～

例43; 言葉が通じると相手をさらに**分かる**ことができるし、それはまた相手の国と文化を**分かる**ははじめの一步になります。

→ 言葉が通じると相手をさらに**知る**ことができるし、それはまた相手の国と文化を**知る**ははじめの一步になります。

例44; よく知らなかった分野ですけれども、企業との関係についてすこしでも**わかる**ようになりました。

→ よく知らなかった分野ですけれども、企業との関係についてすこしでも**理解**できるようになりました。

例45; 前に感じられなかった日本人の特性とか日本の文化についてもっと**わかる**ようになりました。

→ 前に感じられなかった日本人の特性とか日本の文化についてもっと**理解**できるようになりました。

例46; 私は不足な点が多い人だと思えますが、**知らない**ことがあったら、わかるようになるまで努力します。

→ 私は不足な点が多い人だと思えますが、**わからない**ことがあったら、わかるようになるまで努力します。

例47; その時、**思い付いた**のが、韓国に來ている、中国の朝鮮民族の人達を僕らは直ちに、不法滞在者やお金を稼ぎに來た人達としか見てなかったことでした。

→ その時、**思い出した**のが、韓国に來ている、中国の朝鮮民族の人達を僕らは直ちに、不法滞在者やお金を稼ぎに來た人達としか見てなかったことでした。

【형용(동)사의 경우】

例48; 小さいけれど、一日を全部過ごしても足りないほど**多い**見ところがあるインサドンは、～

→ 小さいけれど、一日を全部過ごしても足りないほど**たくさん**の見ところがあるインサドンは、～

【접속사의 경우】

例49; 私は明るくて闊達な性格を持っています。**それで**なんのことも肯定的に考えるのでいい結果を得たことがたくさんあります。

→ 私は明るくて闊達な性格を持っています。**そして**なんのことも肯定的に考えるのでいい結果を得たことがたくさんあります。

例50; 私はいつも笑いながら相手を対しようと努力しています。**それで**私を見る人に明るくて活動的なイメージに見えるようにしています。

→ 私はいつも笑いながら相手を対しようと努力しています。**そして**私を見る人に明るくて活動的なイメージに見えるようにしています。

例51; 下手だったけど、ドンドンうまく運転するようになった。**それで**、試験が終わった後、当日の午後に一人で海を見に清州から近いデチョン海水浴場へ音楽を聞きながら行きます。

→ 下手だったけど、ドンドンうまく運転するようになった。**だから**、試験が終わった後、当日の午後に一人で海を見に清州から近いデチョン海水浴場へ音楽を聞

きながら行きます。

例52; 意義深い出会いになるのを願っています。また私が少なくとも役立てるといいと思います。

→ 意義深い出会いになるのを願っています。そして私が少なくとも役立てるといいと思います。

1.3 청·탁음의 혼동으로 인한 오용

이것은 단어의 清音과 濁音의 혼동에서 온 오류라고 생각되는 경우인데, 일본에 1년간 어학연수를 다녀온 학생들에게도 의외로 많이 나타난다는 것이다. 다음은 탁음이 되어야 곳이 청음으로 표현된 오용이며,

例53; 一日を全部過ごしても足りないほど多い見ところがあるインサドンは、～

→ 一日を全部過ごしても足りないほど多い見どころがあるインサドンは、～

例54; お土産もあるけど、買わなくても楽しめるほどそれは一つの見ところになっている。

→ お土産もあるけど、買わなくても楽しめるほどそれは一つの見どころになっている。

例55; 天気もいいし空も青いしどこかで海の臭いがするようで私の気持までどんどんよくなってきた。

→ 天気もいいし空も青いしどこかで海の臭いがするようで私の気持までどんどんよくなってきた。

例56; 色んなことを感じる事ができました。

→ 色んなことを感じる事ができました。

다음은 이와는 반대로 청음이 되어야 할 곳이 탁음으로 표현된 경우이다.

例57; ソウルの昔と現在を一目に見ることが出来るどころ。

→ ソウルの昔と現在を一目に見ることが出来るところ。

例58; 彼女の友だちの金さんが迎えに来てくれた。

→ 彼女の友だちの金さんが迎えに来てくれた。

例59; 郵便局ではだらいたこともありました。

→ 郵便局ではたらいだこともありました。

2. 문법적 오용

이것은 상급 일본어 학습자들이 일본어를 사용하는데 있어 적절한 어휘를 선택·사용하는데 있어 나타나는 오용이 아니라 일본어의 문법적인 측면(동사

의 가능형·수동형·사역형·수수동사(やりもらい)·자타동사의 사용 등)의 이해의 부족으로 나타나는 오용이라 생각되는 것으로 주로 동사와 조사에서 오용이 두드러지는 것이 특징적이다.

2.1 동사의 경우

동사에서 보이는 문법적인 오용의 첫 번째는, 문맥의 흐름상 동사의 가능형(가능동사)를 사용해야 함에도 불구하고 동사의 가능형을 사용하지 않아 생긴 오용의 경우이다.

例60; 最初は運転する機会があんまりなくて、下手だったけど、ドンドンうまく**運転する**ようになった。

→ 最初は運転する機会があんまりなくて、下手だったけど、ドンドンうまく**運転でき**るようになった。

例61; 跆拳道というスポーツを通じて我々のことを理解して**もらう**ように今度の祝祭で私はそれに言葉の壁を乗り越えてもっと意義深い出会いになるのを願っています。

→ 跆拳道というスポーツを通じて我々のことを理解して**もらえる**ように今度の祝祭で私はそれに言葉の壁を乗り越えてもっと意義深い出会いになるのを願っています。

그러나 다음 예는 이와는 반대로 문맥상 동사의 가능형(가능동사)를 사용하지 않아야 함에도 불구하고 동사의 가능형을 사용해서 생긴 오용이며,

例62; 他の人より一步先に進める進取的な社員に**なれる**とお約束致します。

→ 他の人より一步先に進める進取的な社員に**なる**とお約束致します。

例63; そんなことにこだわらなくて、互いに信じる心があったら、どんな国際恋愛でもうまく**いける**と思います。

→ そんなことにこだわらなくて、互いに信じる心があったら、どんな国際恋愛でもうまく**いく**と思います。

다음은 5단동사의 「送る」를 1단동사와 같이 동사의 가능형을 만든 데에서 온 오용이다.

例64; 電話も国際電話だから、一日に2, 3回ぐらいするのが全部です。でもメールなどはたびたび**送られる**から、それが慰めになっています。

→ 電話も国際電話だから、一日に2, 3回ぐらいするのが全部です。でもメールなどはたびたび**送れる**から、それが慰めになっています。

동사에서 보이는 문법적인 오용의 두 번째는, 문맥의 흐름상 동사의 수동형(수동동사)를 사용해야 함에도 불구하고 동사의 수동형을 사용하지 않아 생긴 오용이다.

例65; 私には自慢の、外人には韓国を**感じる**ところとしてここにいつまでも残るだろうと思う。

→ 私には自慢の、外人には韓国を**感じられる**ところとしてここにいつまでも残るだろうと思う。

例66; 国が二分**して**いて、中国、ロシア、日本などいろいろなところに僕らの民族は生きています。

→ 国が二分**されて**いて、中国、ロシア、日本などいろいろなところに僕らの民族は生きています。

例67; だからオンちゃんから「プサンへ遊びに来てね。」って**聞いた**ときにとても嬉しかった。

→ だからオンちゃんから「プサンへ遊びに来てね。」って**言われた**ときにとても嬉しかった。

그러나 다음 예는 위와는 반대로 문맥상 동사의 수동형(수동동사)를 사용하지 않아야 함에도 불구하고 동사의 수동형을 사용해서 생긴 오용이다.

例68; 微笑する人には親切さや穏やかな心が**宿ら**れています。

→ 微笑する人には親切さや穏やかな心が**宿**っています。

例69; 私が今までずっと**育て**られてきたところ、「京畿道」の「利川」と言うところだ。

→ 私が今までずっと**育**ってきたところ、「京畿道」の「利川」と言うところだ。

例70; これは私が日本に生活したとき、再び**感じ**られたことです

→ これは私が日本に生活したとき、再び**感**じたことです。

동사에서 보이는 문법적인 오용의 세 번째는, 문맥의 흐름상 동사의 사역형(사역동사)를 사용해야 함에도 불구하고 동사의 사역형을 사용하지 않아 생긴 오용으로, 하나의 문장 안에서 두 개의 동일한 오용이 나타난 것이 특징적이다.

例71; いろいろところで目を**楽しめ**たら、あるいてつかれた足を休むためにも店は必ず行くのが大切。

→ いろいろところで目を**楽しませ**たら、あるいてつかれた足を休むためにも店は必ず行くのが大切。

例72; いろいろところで目を**楽しめ**たら、あるいてつかれた足を**休む**ためにも店は必ず行くのが大切。

→ いろいろなところで目を楽しめたら、あるいてつかれた足を**休ませる**ためにも店は必ず行くのが大切。

또 다음은 자동사와 타동사의 구분의 오용으로 나타나는 현상으로, 또 동사의 연용형(마스체)에 붙어 「~하기 시작하다」의 의미로 사용될 때는 「本を読み始める」「花が咲き始める」와 같이 「はじめる」는 쓰여도 「はじまる」는 쓰이지 않는다는 것을 깨닫지 못한데서 오는 오용이라 생각되며,

例73; 夏休みからは中国語を**習い始まる**つもりです。

→ 夏休みからは中国語を**習い始める**つもりです。

다음은 종속절과 주절의 관계상 부산에 도착해 있어야 함에도 불구하고 부산을 향하고 있는 상태를 나타냄으로서 나타나는 오용의 예이다.

例74; あまり時間がなくて急いで観光地へ**向かって行った**けど、ブサンで有名だといわれているところはほとんど見て来た。

→ あまり時間がなくて急いで観光地へ**行った**けど、ブサンで有名だといわれているところはほとんど見て来た。

그리고 다음 예는 일본어의 授受 표현(やりもらい)에 있어서 「くれる」와 「あげる」의 용법에 대한 이해부족 또는 혼동에서 온 오용이며

例75; 私の長所は他人に対して人の話をよく聞いて**くれる**し、初対面でも安らかにしてあげるといところです。

→ 私の長所は他人に対して人の話をよく聞いて**あげる**し、初対面でも安らかにしてあげるといところです。

다음은 문장의 술어인 「思う」라는 동사를 아스펙트적으로 完成相²⁾을 사용해

2) 高橋太郎씨는 テンス와 아스펙트에 대해 다음과 같이 구분(분류)하고 있다. (高橋太郎 『動詞九章』 p.66 ひつじ書房)

アスペクト テンス	完成相	継続相
非過去形	する	している
過去形	した	していた

야 함에도 불구하고 継続相을 사용한데서 온 오용이다.

例76; 故国を忘れず色んなところで頑張ってる人々がたくさんいると**思っています**。

→ 故国を忘れず色んなところで頑張ってる人々がたくさんいると**思います**。

동사에서 나타난 마지막 오용으로 文末 술어의 시제가 과거가 되어야함에도 불구하고 현재형을 사용한데서 온 경우이다.

例77; 必ず〇〇の一員になりたいです。**ありがとうございます**。

→ 必ず〇〇の一員になりたいです。**ありがとうございました**。

2.2 助詞의 경우

조사의 오용으로 첫 번째는 다음에서 보여지 듯 「で」가 쓰여야 할 곳에 「に」가 온 경우이다.

例78; 私は一男二女の中で次女として、厳しい両親の下**に**育てられました。

→ 私は一男二女の中で次女として、厳しい両親の下**で**育てられました。

例79; これは私が日本**に**生活した時、再び感じられたことです。

→ これは私が日本**で**生活した時、再び感じられたことです。

例80; 600年も続いた首都としてのソウルの昔と現在を一目**に**見る事が出来るどころ。

→ 600年も続いた首都としてのソウルの昔と現在を一目**で**見る事が出来るどころ。

例81; その人々と私は明洞やイテウォン、東大門などいろいろなところに行ったが、そのなか**にも**インサドンの思い出が一番記憶に残っている。

→ その人々と私は明洞やイテウォン、東大門などいろいろなところに行ったが、そのなか**でも**インサドンの思い出が一番記憶に残っている。

그러나 다음 예는 이와는 반대로 「に」가 쓰여야 할 곳에 「で」를 사용함으로써 오용이 됨 경우이다.

例82; 彼らの口から時々出てくる知らない方言や北朝鮮の言葉に似てるアクセント**で**純粹感を感じることもできました。

→ 彼らの口から時々出てくる知らない方言や北朝鮮の言葉に似てるアクセント**に**純粹感を感じることもできました。

조사의 오용으로 두 번째는 다음에서 보여지 듯 「に」가 쓰여야 할 곳에 「の」가 온 경우인데, 예문 모두 동일인이라는 것이 특징적이며,

- 例83; 1年間のデパートのアルバイトでの顧客応対は人の対して何を優先するか、～
→ 1年間のデパートのアルバイトでの顧客応対は人に対して何を優先するか、～
例84; 観光通訳の経験と2年生の時は大学の寮長として人の対しての責任感をならい、～
→ 観光通訳の経験と2年生の時は大学の寮長として人に対しての責任感をならい、～

다음 예는 이와는 반대로 「の」가 쓰여야 할 곳에 「に」가 온 경우이다.

- 例85; 自分が持っている韓国に文化を自慢に思っていました。
→ 自分が持っている韓国の文化を誇りに思っていました。

조사 오용의 세 번째는 문장 속에서 조사 「に」를 넣어야 함에도 불구하고 사용하지 않은 데서 온 오용이다.

- 例86; いろいろなところで目を楽しめたら、あるいてつかれた足を休むためにも店は必ず行くのが大切。
→ いろいろなところで目を楽しめたら、あるいてつかれた足を休むためにも店には必ず行くのが大切。
例87; 逆に、おもしろいのは「利川」住んでいると言ったら、お父さんは当然、農業に携わっていると思われるのだ。
→ 逆に、おもしろいのは「利川」に住んでいると言ったら、お父さんは当然、農業に携わっていると思われるのだ。

그러나 다음 예는 이와는 반대로 조사 「に」를 사용함으로써 온 오용이다.

- 例88; そのおかげで、我が家には今までお米を一度も買ったことがない。
→ そのおかげで、我が家は今までお米を一度も買ったことがない。

조사 오용의 네 번째는 다음에서 보여지 듯 조사 「の」를 넣어야 함에도 불구하고 사용하지 않은 데서 온 오용이다.

- 例89; 私の母は飯を炊くたびは一回に五日間ぐらい量のごはんを炊いて食べるし、～
→ 私の母は飯を炊くたびは一回に五日間ぐらいの量のごはんを炊いて食べるし、～

그러나 다음 예는 이와는 반대로 조사 「の」를 사용함으로써 온 오용이다.

例90; 東京中央日本語の学校というところで勉強をしながら、日本人が経営していた店でバイトをしました。

→ 東京中央日本語学校というところで勉強をしながら、日本人が経営していた店でバイトをしました。

例91; 彼らは国籍は中国であっても韓国を応援し、自分が持っている韓国の文化を自慢に思っていました。

→ 彼らは国籍は中国であっても韓国を応援し、自分が持っている韓国文化を自慢に思っていました。

조사 오용의 다섯 번째는 다음에서 보여지 듯 조사 「を」를 써야 함에도 불구하고 「が」 사용함으로써 온 오용인데, 그런데 이것은 「그녀가 생각이 나서」라는 한국어의 일본어 표현이기에, 어쩌면 [1.1 한국어(모국어)적 표현으로 나타나는 오용]으로도 해석이 가능한 경우인 것 같다.

例92; 実は彼も彼女に会った瞬間、昔の愛しかった彼女が思い出して胸がさわぎました。

→ 実は彼も彼女に会った瞬間、昔の愛しかった彼女を思い出して胸がさわぎました。

조사 오용의 여섯 번째는 다음에서 보여지 듯 접속조사 「て」를 사용한 형용사의 중지형³⁾으로 나열해야 할 것을 접속조사 「～し」를 사용함으로써 나타난 오용이다.

例93; 彼女は仕事も一生懸命にやって、家事もおろそかにしたことはありません。優しい、面白いし、それにきれいな見た目まで、いわゆる完璧な女の人です。

→ 彼女は仕事も一生懸命にやって、家事もおろそかにしたことはありません。優しく、面白くて、それにきれいな見た目まで、いわゆる完璧な女の人です。

그런데 다음 예도 동사의 중지형⁴⁾으로 나열해야 할 것을 접속조사 「～し」

3) 鈴木重幸씨는 『日本語文法・形態論』의 「形容詞なかどめの形」(p.443)라는 항목에서에서 형용사 「うつくしい」를 예로 들며, 「うつくしく」라는 형태를 第一なかどめ, 「うつくしくて」라는 형태를 第二なかどめ라고 정의하고 있음.

4) 鈴木重幸씨는 『日本語文法・形態論』의 「動詞なかどめの形」(p.333)에서 다음과 같이 논하고 있다. なかどめの形には「よんで」「かいて」という形のほかに、「よみ」「かき」という形があります。「よみ」「かき」というなかどめはふるい形で、文章のなかだけでつかわれます。これを第一なかどめといいます。「よんで」「かいて」という形は第二なかどめといいます.

를 사용함으로써 나타난 오용인데, 다음 예는 위와 달리 접속조사「~し」가 동사에 접속된 경우이다.

例94; 私の母は飯を炊くたびは一回に五日間ぐらい量のごはんを炊いて**食べるし**、めしが黄色くて臭いが少し出ても母はそれを無駄に捨てるのはないです。

→ 私の母は飯を炊くたびは一回に五日間ぐらい量のごはんを炊いて**食べ(て)**、めしが黄色くて臭いが少し出ても母はそれを無駄に捨てるのはないです。

2.3 그 외의 경우

그 이외의 경우로는 다음 예문과 같이 부사「そう」가 문장 안에서 종속절의 술어로 쓰일 때 「そうだ」의 형태를 취해야 하는데, 그렇게 사용하지 않은 오용과

例95; とくに寒い日には凍った手と疲れた足も**そう**けれど、店の雰囲気は外国人には忘れられない思い出になる。

→ とくに寒い日には凍った手と疲れた足も**そうだ**けれど、店の雰囲気は外国人には忘れられない思い出になる。

문장의 술어로 [~은 처음이다.] 라는 일본어 표현은 부사「はじめて」사용해야 함에도 불구하고 명사「はじめ」를 사용한 오용이다.

例96; 実はブサンに行くことも**はじめ**だった。

→ 実はブサンに行くことも**はじめて**だった。

3. 표현의 오용

표현의 오용이란 어휘 사용에 있어서의 문제나 단어의 문법적인 측면에 있어서는 별 문제가 되지 않지만, 문장 전체를 놓고 볼 때 일본어 표현으로서는 오용이라 판단되는 경우이다.

3.1 경어 표현에 있어서의 오용

다음 예는 문장 주절의 술어가 정중체이기에 종속절의 술어도 정중체로 해야 함에도 불구하고 보통체로서 표현했기에 나타난 오용이며,

例97; このように彼と私は言葉が違い、ここでは**言**って**な**かったが、考え方や文化など違うところがたくさんあります。

→ このように彼と私は言葉が違い、ここでは**言**って**な**かったのですが、考え方や文化など違うところがたくさんあります。

例98; 彼とは去年、私が日本で留学した時、**出**会ったが、その時彼は韓国にはまったく興味がありませんでした。

→ 彼とは去年、私が日本で留学した時、**出**会いましたが、その時彼は韓国にはまったく興味がありませんでした。

다음 예는 일반적 표현(보통체)을 써도 무방함에도 불구하고 자신에 대해 겸양어를 사용함으로써 나타난 오용이다.

例99; 旅行が大好きで飛行機が大好きだし誰かにサービスを**致**すことが私の天職だと思っています。

→ 私は旅行が大好きで飛行機が大好きだし誰かにサービスを**す**ることが私の天職だと思っています。

3.2 한국어적 표현으로 인한 오용

이것은 한국어적 표현을 일본어 문장 속에 사용함으로써 나타난 오용으로 일본어다운 일본어가 되지 못한 경우인데, 1,1의 [한국어적 표현으로 인한 오용]은 하나의 단어(어휘)가 오용인 것에 반해, 이것은 구와 절과 같이 단어 이상의 개념에서 오용이 나타난 경우이다.

例100; 私の長所は他人に対して人の話をよく聞いてくれるし初対面でも**安**らかにしてあげるところです。

→ 私の長所は他人に対して人の話をよく聞いてくれるし初対面でも**親**しくなることができるということです。

例101; まず、貴社に応ずることができて真に嬉しいです。いい**縁**になればという願いで私の紹介を致します。

→まず、貴社に応ずることができて真に嬉しいです。**最**初に、私の紹介を致します。

例102; 韓国の伝統の喫茶店や昔の食べ物を売っている店はもちろん、**食**いしん坊が泣くほど美味しい韓定食もある。

→ 韓国の伝統の喫茶店や昔の食べ物を売っている店はもちろん、**ほ**おが**落**ちそうに美味しい韓定食もある。

3.3 수식표현에 있어서의 오용

일본어에 있어 수식어는 피수식어의 앞에서 수식하는 것이 일반적이기에, 다음 예에서, 연속해서 경쾌하게 회전하는 모습⁵⁾을 나타내는 의태어인 「くるくる」가 「回る」앞에서 「回る」를 수식한다고 생각해 「くるくる回る」라고 한다면 아무런 오류가 없어 보이지만, 다음 예문은 「回る」라는 동사도 「玉の音」라는 명사 앞에서 이것을 수식하기에 여기서는 회전하는 모습을 나타내는 의태어인 「くるくる」보다 모래나 알맹이 상태의 딱딱한 것이 대량으로 부딪혀서 나는 소리⁶⁾를 나타내는 의성어인 「ざらざら」를 사용하는 것이 문맥적으로는 더 낫다고 생각된다.

例103; パチンコの前を通ると、くるくる回る玉の音が耳鳴りがするほどそうぞうしく、大きな商店街では、～
→ パチンコの前を通ると、ざらざら回る玉の音が耳鳴りがするほどそうぞうしく、大きな商店街では、～

4. 마치며

우리나라 일본어 학습자 학생들 가운데 상급 일본어 학습자들이 쓴 일본어 작문에서 나타난 오용례를 수집하여 분석한 결과를 종합해 보면 다음과 같은 특징이 있는 것을 알 수 있다.

첫째는 어휘 사용의 오용에서 나타나는 특징인데, 이것은 크게 두 가지로 압축할 수 있다. 하나는 일본어 속에 한국어(모국어)의 영향으로 인한 한국어적 어휘(예; 「청주대학교 → 淸州大学校」 「부족한 점이 많은 사람 → 不足な点が多い人」 등)가 많이 나타난다는 것과 다른 하나는 한국어의 어휘에 해당하는 유사한 일본어가 여러 개 있는 경우, 그 중 어느 것을 선택하여 사용하는가? 다시 말해 문장 속에 가장 적절한 단어를 선택하여 사용해야 함에도 불구하고 그러지 못하는데서 나타나는 오용((예; 「자랑 → 誇り·自慢·誉れ·うぬぼれ」 「배우다 → 習う·学ぶ」 「알다 → 分かる·知る」 「많다 → 多い·たくさんだ」 등) 인 것이다. 한국어의 영향으로 나타나는 오용의 경우에 대해서는 학생들을 지도하는데 그다지 어려움을 느끼지 못했지만, 유사한 어휘로 인한 오용은 지도하는데 상당한 어려움을 느꼈다. 유사한 어휘에 대한 오용의 지도는 일본인

5) 『擬音語・擬態語辞典』(角川書店) p.104

6) 『擬音語・擬態語辞典』(角川書店) p.134

이라 하더라도 그리 쉽지 않으리라 생각된다. 왜냐하면 수많은 유사한 어휘들의 각각의 특징을 숙지해 일본어 학습자들에게 사용된 어휘가 왜? 오용인가를 구체적이고 논리적으로 설명할 수 있어야 하기 때문이다.

둘째는 문법에서 나타나는 오용인데, 이것은 품사적으로 유난히 동사와 조사에서 많다는 것이 특징적이다. 이러한 사실은 한국인 일본어 학습자들에게 있어 동사와 조사가 다른 품사들보다 공부하기 어렵고 이해하기 힘들다는 것의 반증이기도 하기에, 일본어의 문법을 가르치고 지도할 때는 다른 품사보다도 동사와 조사에 보다 많은 시간을 할애하여 집중적으로 가르쳐야 한다는 것을 알려준다.

마지막으로 표현의 오용인데, 이것은 어휘 사용에 있어서의 문제나 단어의 문법적인 측면에 있어서는 별 문제가 되지 않지만, 문장 전체를 놓고 볼 때 일본어 표현으로서는 오용이라 생각되는 경우이다. 여기에 나타난 특징을 크게 세 가지로 나눌 수 있는데, 그 중 하나가 경어사용(정중체와 보통체, 겸양어의 사용 등)에 있어서의 오용이고, 다른 하나는 일본어 문장 속에 한국어적 표현이 사용된 오용이며, 마지막 하나는 수식표현에 있어서의 오용인데, 이것들은 지도하는데 그다지 어려움이 없었다.

【参考文献】

- 浅田鹤子编(昭和53年)『擬音語・擬態語辞典』, 角川書店. p.104, p.134
 金田一京助 外(1997)『新明解国語辞典(第五版)』, 三省堂. p.1056
 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』, むぎ書房. p.333. p.443
 高橋太郎(2003)『動詞九章』, ひつじ書房. p.66
 西尾 実 外(1986)『岩波国語辞典(第四版)』, 岩波書店. p.844

要 旨

この論文は、筆者が勤めている（韓国の）清州大学の日語日文学科の四年生の授業である「日本語上級文章演習」を受講した四年生を対象として、彼らが日本語で書いた作文から誤用例を集めて、調べたものである。誤用を特徴的に分けると、は大きく「語彙使用の誤用」と「文法的な誤用」と「表現の誤用」の三つに分類することができた。そして、「語彙使用の誤用」は、韓国語(母語)の影響からの誤用と類似した語彙による誤用と清・濁音の混同からきた誤用に分けることができたし、「文法的な誤用」では、品詞的には動詞と助詞の誤用が圧倒的に多いことが特徴的である。このことは、韓国人にとって文法的には動詞と助詞が他の品詞よりも難しいということの証しでもある。

キーワード：韓国人の日本語上級学習者・語彙の誤用・品詞・文法的な誤用・表現の誤用・母語(韓国語)の影響・日本語の教育

투 고 : 2007.11.30
1차 심사 : 2007.12.08
2차 심사 : 2007.12.29

住 所 : (360-764) 충북 청주시 상당구 내덕동 36 청주대학교 일어일문학과
電 話 : 019-475-3338
e-mail : immanuel@cju.ac.kr